

彙 報

会長 国 広 哲 弥

昭和 61 年度第 1 回常任委員会

日 時：1986 年 4 月 26 日（土）14 時～18 時 30 分

場 所：三省堂内 言語学会事務局

出席者：国広哲弥（会長）、菊地康人、柴谷方良、田村すず子、長嶋善郎、長谷川欣佑、町田 健、峰岸真琴（以上、常任委員）、小泉 保（編集委員長）、松本克己（会計監査委員、第 92 回大会運営委員長）、上野善道（事務局長）

- （1） 昭和 60 年度決算報告
- （2） 昭和 61 年度予算案
- （3） 第 92 回大会について
- （4） 「新言語学・学術用語集」の検討について
- （5） 投稿規定の改訂について
- （6） 編集委員の追加（崎山 理）
- （7） 新常任委員の紹介（町田 健、峰岸真琴）
- （8） 昭和 61 年度秋季大会開催校

昭和 61 年度第 1 回委員会

日 時：1986 年 6 月 14 日（土）10 時～13 時

場 所：筑波大学 大学会館第 4 会議室

出席者：国広哲弥（会長）、井出祥子、井上史雄、梅田博之、上野善道（事務局長）、大東百合子、寛 壽雄、小泉 保、近藤達夫、崎山 理、佐藤昭裕、柴谷方良、清水克正、下宮忠雄、田村すず子、柘植洋一、角田太作、徳永康元、長嶋善郎、奈良 毅、西田龍雄、野元菊雄、樋口

康一，宮岡伯人，村木正武，矢島文夫，藪 司郎，湯川恭敏（以上 28 名）

委任状：37 名

オブザーバー：松本克己（会計監査委員，大会運営委員長），奥津敬一郎（会計監査委員），荻野綱男，菊地康人，町田 健，峰岸真琴（以上，常任委員）

議事ならびに報告

- （1） 昭和 60 年度決算報告が承認された。（別表 1 参照）1986 年 4 月 26 日に会計監査委員奥津敬一郎・松本克己両氏より適正と認められたものである。
- （2） 昭和 61 年度の予算案が審議され，承認された。（別表 2 参照）
- （3） 昭和 61 年度秋季大会開催校は大阪外国語大学（箕面市栗生間谷），運営委員長は小泉 保氏ときまった。
- （4） 第 14 回国際言語学会議に代表を派遣するために，会員中より自薦他薦の立候補者を募ることとした。
- （5） 投稿規定および研究発表申し込み規定について審議をし，一部は承認，一部は継続審議となった。
- （6） 報 告
 - （a） 編集委員に崎山 理氏を追加することが小泉 保編集委員長より報告された。
 - （b） 九学会連合の今年度の当番学会が日本言語学会であること，およびその活動状況について，野元菊雄理事から報告があった。
 - （c） 新常任委員として町田 健，峰岸真琴の 2 氏を追加することとし，紹介した。
 - （d） 事務局職員として浜口幸一氏に代って 4 月から藤井三知代氏を採用したことを報告し，紹介した。

[別表 1]

昭和 60 年度 日 本 言 語 学 会 決 算

自 昭 和 60 年 4 月 至 昭 和 61 年 3 月

(単 位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,352,461	1 刊 行 費	3,559,882
C 雑 誌 売 上	214,850	2 編 集 費	200,000
D 文 部 省 補 助 金	700,000	3 送 送 等 事 務 委 託 費 及 び 送 送 実 費	1,578,086
E 預 金 利 息	44,597	4 大 会 関 係 費	656,821
F 雑 収 入	3,000	5 委 員 会 費	47,820
		6 常 任 委 員 会 費	88,900
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	72,200
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 通 信 費	123,610
		11 事 務 費	90,900
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	561,820
		16 雑 費	0
収入合計	7,314,908	支出合計	7,060,039
A 前 期 繰 越	3,306,984	15 選 挙 関 係 等 準 備 積 立 金	0
		17 次 期 繰 越	3,561,853
計	10,621,892	計	10,621,892

◇ 支 出 内 訳

1. 刊 行 費	第 88 号	2,032,890
	第 89 号	1,526,992

3. 発送等事務委託費及び発送実費

事務委託費	1,327,856
発送費	250,230

4. 大会関係費

第90回	362,240
第91回	294,581

[別表 2]

昭和61年度日本言語学会予算

自昭和61年4月 至昭和62年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,530,000	1. 刊 行 費	5,000,000
C 雑 誌 売 上	800,000	2. 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	610,000	3. 学 会 事 務 セ ン タ 一 委 託 費	1,600,000
E 預 金 利 息	50,000	4. 大 会 関 係 費	800,000
F 雑 収 入	0	5. 委 員 会 費	150,000
		6. 常 任 委 員 会 費	150,000
		7. 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8. C I P L 負 担 金	80,000
		9. 選 挙 関 係 費	0
		10. 通 信 費	300,000
		11. 事 務 費	400,000
		12. 設 備 費	500,000
		13. 事 務 局 職 員 謝 金	930,000
収入合計	7,990,000	14. 予 備 費	1,100,000
A 前 期 繰 越	3,561,853	16. 雑 費	61,853
計	11,551,853	計	11,551,853

第92回大会

期 日 昭和61年6月14日(土)・15日(日)

会 場 筑波大学

第1日(6月14日)

開 会 の 辞 午後1時30分より

シンポジウム 「能格性をめぐって」

宮岡 伯人 柴谷 方良

長野 泰彦 角田 太作

司会 松本 克己

会 員 懇 親 会 午後6時00分～8時00分

第2日(6月15日)

研 究 発 表 午前10時00分～12時10分

◦ A会場

(A 1) 固有名の意味論 上林 洋二

(A 2) 与格主語文と話題化 長友 和彦

(A 3) A Three-Level Approach to Typology

——他動詞構文をめぐる言語事象に対する説明原理 山本 秀樹

(A 4) 現代トルコ語の object-incorporation について 栗林 裕

◦ B会場

(B 1) 文生産メカニズムの単位について 寺尾 康

(B 2) 助数詞の意味習得：体系と習得順 松本 曜

(B 3) 日本語における多義的な名詞句修飾構造の意味解釈 山中 信彦

(B 4) 音芯論の提唱——非示差的特徴の研究—— 城生 佰太郎

会 員 総 会 午後1時10分～1時30分

研 究 発 表 午後1時30分～4時10分

◦ A会場

(A 5) マリ語の「動詞＋動詞」型の複合動詞 松村 一登

(A 6) タガログ語の使役形態素 pa- の意味構造 石山 伸朗

(A 7) タガログ語の ng 格名詞句について 原田 龍二

(A 8) 古プロヴァンス語における動詞の単純過去および
半過去のテキスト内での分布について 町田 健

(A 9) アナトリア諸語における語末の *-r* の歴史的考察 吉田 和彦

◦ B会場

(B 5) ヘルパー PRO 高橋 孝二

(B 6) If 節の統語構造——3種類の if 節と \bar{X} 理論—— 高見 健一

(B 7) 発話行為の副詞の両義性について 菅野 憲司

(B 8) 一般化と部分と全体 原口 庄輔

(B 9) 日本語の統語・語彙構造と時制辞の分布 神尾 昭雄

閉会の辞

◇ 物故会員

佐々木 達 (昭和 61 年 4 月 10 日)

大江 三郎 (昭和 61 年 8 月 26 日)

規定の改訂

1986年10月11日(土)の委員会で旧「投稿規定」および旧「研究発表等に関する内規」が下記のように改訂されました。

今後の投稿および研究発表の申し込みは、以下の新规定によりお願いします。

投稿規定(新)

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿は随時受け付ける。
3. 投稿は未公開の完全原稿に限る。校正段階での変更は認めない。
4. 投稿の際、オリジナル原稿(図版も含む)の外にコピーを2部添える。
5. 使用言語は日本語、英語、フランス語、ドイツ語とする。
6. 枚数：図・表等を含め、邦文論文は400字詰め横書き原稿用紙50枚分以内、欧文論文はタイプダブルスペースで30枚分以内；書評論文は同じく邦文30枚分以内、欧文20枚分以内；書評・紹介は邦文15枚分以内、欧文10枚分以内。ただし、原稿はワープロで打ってもよい。上記制限枚数を超えた原稿は編集委員会で圧縮を要求することがある。
7. 使用言語をとわず、論文には必ず欧文タイトルと欧文の要約(タイプ20行以内)を添える。その外に、欧文論文には日本語の要約(400字詰め原稿用紙1枚分以内)も添える。
8. ギリシア字・ロシア字以外の特殊文字はローマ字化する。音声字母は可能な限り国際音声学協会所定のものを用いる。造字を要する特殊文字は、必要不可決の場合を除き、避ける。
9. 引用文献：単行本については著(編)者名、発行年、書名、発行所、発行地；論文については著者名、発行年、論文名、掲載誌名、巻号、頁を記入する。論文集は単行本に準ずる。
10. 原稿の採否は編集委員会が決定する。
11. 印刷上の体裁については編集委員会が決定する。
12. 特殊活字・図版の作成等によって多額の費用を要した場合、その費用は投稿者の負担とする。
13. 原稿は原則として採否にかかわらず返却しない。
14. 稿料は払わない。
15. 論文、書評論文、書評・紹介の執筆者には本誌1部と抜刷20部を無料で呈する。20部を超える抜刷は実費負担とする。

研究発表に関する規定（新）

1. 研究発表は会員にかぎる。
2. 使用言語は日本語または英語とする。
3. 研究発表希望者は、発表要旨に、住所、氏名(ふりがな)、所属機関、職名、連絡先電話番号を明記し、本学会事務局あてに申し込む。発表要旨は、邦文は400字詰め原稿用紙4枚分以内、英文はタイプダブルスペース2枚分以内とする。
4. 申し込み締切は、春季大会は3月末日、秋季大会は8月末日とする。
5. 持ち時間は1人30分とする。その中に5分程度の質疑応答の時間が含まれる。
6. 採否は常任委員会が決定する。
7. 研究発表採択者には本学会事務局から発表時間を予め通知する。
8. 研究発表者は、当日、各自の発表の直前の休憩時間までに会場受付に到着の旨連絡し、配布資料があれば、その時に手渡す。
9. 研究発表用の配布資料は各自の負担で用意する。
10. 研究発表者がテープレコーダー、オーバーヘッドプロジェクター（OHP）等の使用を希望する場合は、発表決定通知が到着次第、開催校の運営委員長に問い合わせる。
11. 研究発表者は『言語研究』掲載用の発表要旨を発表当日に会場受付に提出する。枚数は、邦文は400字詰め原稿用紙2枚分以内、欧文はタイプダブルスペース1枚分以内（厳守。図表等も含む）とする。

昭和61年度秋の叙勲において、本学会評議員の金田一春彦氏は、勲三等旭日中綬章を受章されました。

また、本学会委員の北村甫氏は、紫綬褒章を受章されました。

本学会として、心からお祝い申し上げます。